

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	准教授	新實 広記
最終学歴	学 位	専門分野
愛知教育大学大学院教育学研究科芸術教育専攻修士 課程修了	学術	図画工作・造形

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画

(理念)

「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」をコンセプトに、学生一人ひとりがプロジェクトに挑戦できる教育。

(目標)

小学校教諭・保育者（幼稚園教諭及び保育士）養成課程において、将来、学生が質の高い教育、保育を教育現場で行うためには、養成段階で苦手意識を克服し、教育・保育実践力を自ら育てていくことができる人材を育成することが目標である。

(方針)

愛知東邦大学の学生が地域に信頼される学生になり卒業時には人間力をもって現場で活躍できる人材になるように「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を目指し教育活動を行いたい。

(計画)

大学での学びだけではなく、現場での学びを効果的に構成し学生の実践力を育てていくことが重要であると考えている。そのためには、連携していただければ教育現場、保育現場を大学周辺に増やし、信頼を得ながら学生が主体的に学べる環境整備に努力し続けることが不可欠である。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、図画工作科教育法、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、保育内容（造形表現）

(後期)

サービス・ラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、図画工作、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究、幼児と造形表現

○教育方法の実践

コロナ禍の影響もなくなり、基礎演習、専門演習、サービス・ラーニングの授業では、平和が丘保育園、近隣の幼稚園、小学校などの教育現場と連携して、学生に実践的な学びの機会を提供することができた。特に、集団での子ども造形ワークショップの実施や観光バスでの愛知県児童総合センターへの集団研修会など、地域と連携しながら実施することができた。

ゲストスピーカーには、メルヘンハウスの三輪丈太郎さんを招聘して、絵本の魅力について講演を開催していただいた。また、大学近隣のうりんこ劇団と連携して観劇会を行い、学生が豊かな表現力をリアルに体験する機会をつくることができた。

座学での学びと、学外での学びを織り交ぜながら、地域と連携し実践的な学びができるように工夫することができた。

○作成した教科書・教材

- ・新實広記、柿原聖治、白井克尚、山本かほる、堀健治、虎岩朋加
「サービス・ラーニングハンドブック 第8版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2024(令和6)年
3月
- ・新實広記、柿原聖治、白井克尚、山本かほる、堀健治、虎岩朋加
「サービス・ラーニングハンドブック 第7版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2023(令和5)年
3月
- ・新實広記、柿原聖治、白井克尚、山本かほる、堀健治、虎岩朋加
「サービス・ラーニングハンドブック 第7版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2022(令和4)年
3月
- ・新實広記、柿原聖治、矢内淑子、白井克尚、水野順子、梶浦恭子
「サービス・ラーニングハンドブック 第6版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2021(令和3)年
3月
- ・新實広記、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第5版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2020(令和2)年
3月
- ・新實広記、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第4版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2019(平成31)年
3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津
孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック 第4版」発行 愛知東邦大学教育学部 2018(平成
30)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津
孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック 第3版」発行 愛知東邦大学教育学部 2017(平成
29)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津
孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック 第2版」発行 愛知東邦大学教育学部 2016(平成
28)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、今津孝次郎
「サービス・ラーニングハンドブック 第1版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2015(平成27)年
3月

○自己評価

図画工作、造形の授業では、苦手意識のある学生が、苦手意識を克服できたことが授業後の学生レポートや、授業時間外に制作に取り組む態度から知ることができた。基礎演習、専門演習、サービス・ラーニングの授業では、実際に子どもたちと触れ合える機会を増やし、保育・教育現場での実践力を身につけられるように、学内の平和が丘保育園や地域の幼稚園、保育園、小学校と連携して、体験的に学べる環境づくりに力を入れることができた。さらに、授業内容に関連するゲストスピーカーを積極的に招聘して、専門分野で活躍する方から学生が直に学べる機会を増やした。

II 研究活動

○研究課題

- ・造形・図画工作科目における発達段階を考慮した教材研究と題材研究
- ・美術空間の創造

○目標・計画

(目標)

「造形・図画工作科目における発達段階を考慮した教材研究と題材研究」では、実際に幼児や児童がいる教育現場や施設と連携して、実践的に研究を行う。特に、造形活動のプロセスを重視した題材を多く実践し、そのために効果的な教材を開発していく。また、この成果を論文や著書にまとめる。

さらに、「美術空間の創造」では、社会において、アートのある空間を創造することで、私たちの生活にどのような効果があるのかを研究する。例えば、小学校や幼稚園、公共空間において、生活の中で子供たちがアートに触れる機会を増やしていくことや、実際に作品の解説や子供たちとのワークショップを行うことで、アートの価値を感じてもらうことを実践研究として進めていきたい。

(計画)

- ・ものづくり教育会議の研究グループと造形ワークショップの実施や研究会を行う。
- ・日本美術教育学会学会誌編集委員 を継続して行う。
- ・空間と彫刻表現の可能性を探る作品制作と展示を行う。
- ・小学校教諭、保育者養成における表現関係科目の造形に関する教材、題材、技法、造形表現活動の意義についてこれまでの研究成果を論文にまとめる。
- ・美術作家の作品展示と鑑賞教室、アーティストトークで学校の校舎を美術館にする「学校美術館」を実施。

○2016年4月から2024年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・樋口一成 新實広記 他『小学校図画工作の基礎 造形的な見方や考え方を働かせる学び』共著 萌文書林 第3章 版画 4.版を用いた表現④-スチレン版画 pp76-77 第5章デザイン・映像メディア表現 12.モダンテクニックとその活用 pp128-129 13. モダンテクニックを活用した紙芝居づくり pp130-131 第6章 18.モザイクで表す pp186-187 2020(令和2年)1月
- ・新野貴則 福岡知子 新實広記 他 『図画工作科教育法 明日の小学校教諭を目指して 子供の資質・能力を育む』共著 萌文書林 第4章 図画工作科の実践事例 14.中学年 立体に表す活動②pp158-161 図画工作科で用いる材料や技法 4.木で表す(木材の加工法と用具) pp236-237 8.版で表す pp241 10.様々な接着剤、接着テープの性質 pp244-pp245 2019(令和元年)8月
- ・『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』共著第5章 幼稚園・小学校におけるサービス・ラーニング(新實 広記)唯学書房 2019(平成31年)2月
- ・樋口一成 新實広記 他 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』共著 萌文書林 第3章幼児の造形教育の教材-材料や技法の基礎理解「版画①」版の種類や用具の使い方 pp. 68-69 第4章幼児造形教育への実践-大学での実技体験や教育現場での実践例「コラージュ」pp. 130-131、「ゴム版をつくろう」pp. 156-157、「木を切る・打つことからの展開」pp. 166-167、「共同での制作-ものづくり交流の教材実践」pp. 200-201 2018(平成30年)11月
- ・大橋功 松岡宏明 新實広記 他 『美術教育概論(新訂版)』共著 日本文教出版 第Ⅱ部 第7章 幼児造形表現指導の計画と実践 pp84-89 2018(平成30年)10月
- ・辻泰秀 新實広記 他 『造形教育の手法 えがく・つくる・みる』共著 萌文書林 第3章 「版

画」スチレン版画 pp. 66-67 第5章「デザイン・映像メディア表現」 モダンテクニックとその活用 pp. 118-119 モダンテクニックを活用した紙芝居づくり pp.120-121 モザイクで表す pp.170-171 2017 (平成 28)年 3 月

(学術論文)

- ・古市久子、新實広記、矢内淑子、伊藤数馬、「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 IIII -造形表現の授業の分析を通して-」東邦学誌 第 46 巻第 1 号 2017(平成 29)年 6 月 10 日発刊
- ・辻泰秀、早矢仕晶子、新實広記、江村和彦「造形教育における美術鑑賞の指導法 (2)」-「学校美術館」でのギャラリー・トークの方法-岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第 65 巻 第 2 号 2017(平成 29)年 3 月
- ・古市久子、矢内淑子、伊藤数馬、新實広記「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 II -授業実践を通して-」東邦学誌 第 45 巻第 2 号 2016(平成 28)年 12 月発行

(学会発表)

- ・パネリスト：新實広記、山本富章、阿部多偽、モデレーター：天野一夫 シンポジウム「表現としての豊田」 主催：豊田市文化振興課 2022 (令和 4 年) 年 12 月 17 日 (土) 14:00-16:00
- ・講演 「豊田市民芸館蔵のガラス工芸」2022 年 7 月 14:00~16:00
豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知
- ・パネリスト：新實広記、稲垣誠、水谷誠孝 モデレーター：山極裕史 「aaca サロン まちとのインターフェイス・人とのインターフェイス」 建築美術工芸協会 2020 (令和 2 年) 年 12 月 18 日 (金) 17:00-18:30
- ・新實広記、水谷誠孝 平成 30 年度全国保育士養成セミナー 中部ブロック独自企画 ワークショップ「さまざまな素材を写して遊ぶ版画」
一般社団法人全国保育士養成協議会主催 2018(平成 30)年 9 月 16 日
- ・山田唯仁、辻泰秀、新實広記「学校美術館」鑑賞教育プロジェクト 2-作品・アーティスト・子どもをつなぐ活動- 美術科教育学会 2017(平成 29)年 3 月 28 日

(特許)

なし

(その他)

<報告書>

- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol. 8 2022(令和 5)年 7 月
- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol. 7 2022(令和 4)年 7 月
- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol. 6 2021(令和 3)年 7 月
- ・「おてら meets フェスティバル アール・ブリュット展ギャラリートーク」全美協造形教育フォーラム 2019 報告 大学美術教育研究 全国大学造形美術教育教員養成協議会 第 19 号 2021(令和 3)年 3 月
- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol. 5 2020(令和 2)年 7 月
- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol. 4 2019(平成 31)年 7 月
- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol. 3 2018(平成 29)年 7 月
- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol. 2 2017(平成 29)年 7 月

<主要作品発表>

- ・新實広記 「Vessel」 個展 2023 年 11 月 GALERIE hu/名古屋
- ・新實広記 「POKÉMON X KOGEI Playful Encounters of Pokémon and Japanese Craft」
2023 年 7 月 JAPAN HOUSE/Los Angeles Ovation Hollywood・USA
- ・新實広記 「ポケモン×工芸 美と技の大発見」 2023 年 3 月 国立工芸館 /金沢・石川
- ・新實広記 「国際ガラス年 2022 ガラス展」 2022 年 12 月 東京大学 安田講堂/本郷・東京
- ・新實広記 「After Prize」 2022 年 12 月 豊田市美術館ギャラリー/愛知・豊田
- ・新實広記 「豊田市民芸館コレクション展 特別展示」 2022 年 7 月
豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知
- ・新實広記 「itoten」 グループ展 2022 年 3 月 横浜赤れんが倉庫館 1 号館/横浜・神奈川
- ・新實広記 「芸術の隣人たちー豊田気鋭のアーティスト展ー」 2022 年 2 月
豊田市民ギャラリー/愛知・豊田
- ・新實広記 「揺籃の時間」 2021 年 6 月
Cassina ixc. DELL' ARTE Art Gallery/青山・東京
- ・新實広記 「Vessels」 個展 2021 年 2 月 白要堂 /愛知・豊田・足助
- ・新實広記 「itoten」 グループ展 2020 年 11 月
京都文化博物館別館ホール/京都・中京区
- ・新實広記 「Vessel」 コミッションワーク 屋内彫刻 2020 年 5 月
HOTEL OREIN 静岡/葵区
- ・新實広記 「itoten」 グループ展 2019 年 11 月
横浜赤れんが倉庫館 1 号館/横浜・神奈川
- ・新實広記 「次代を担うとよたのアーティストたち展」 グループ展 2019 年 8 月
豊田市民文化会館 展示室 A
- ・新實広記 「Vessel」 コミッションワーク 野外彫刻 2019 年 1 月
PARK FRONT 香椎照葉 /東区・福岡
- ・新實広記 「itoten」 グループ展 2018 年 10 月 代官山ヒルサイドテラス/代官山・東京
- ・新實広記 「第 7 回 現代ガラス展 in 山陽小野田」 土屋良雄審査員賞 2018 年 7 月
山口県立萩美術館 / 山口
- ・新實広記 「VESSEL-光のうつわ-」 個展 2018 年 7 月
豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知
- ・新實広記 「光の図形」 個展 2018 4 月 masayoshi suzuki gallery / 岡崎・愛知
- ・新實広記 「十人十色 ガラスの展覧会 Vol.5〜伊賀秋色〜 イートーテン」
2017 年 11 月 史跡旧崇広堂 /伊賀市
- ・新實広記 「十人十色ガラスの展覧会 〜黒壁秋色〜 イートーテン」
2017 年 10 月 慶雲館 / 長浜市
- ・新實広記 「新實広記展-名づけられた光-」 個展 2017 年 5 月
Cassina ixc. DELL' ARTE Art Gallery/青山・東京
- ・新實広記 「BOX 展-繋ぐ」 日本建築美術工芸協会 優秀賞 2017 年 4 月 建築会館 (東京)
- ・新實広記 「現代ガラスの表現展」 グループ企画展 2016(平成 28)年 12 月 大一美術館 (愛知)
- ・新實広記 「第 3 回街に飛び出す作品展」 2016(平成 28)年 10 月 AACA 建築会館 (東京)
- ・新實広記 「とよたルミアール・プロジェクト 新實広記展」 個展 企画展
2016(平成 28)年 8 月 豊田市役所東庁舎展示スペース (愛知)
- ・新實広記 「feeling in glass 感じとるかたち」 グループ企画展 2016 (平成 28)年 4 月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

日本美術教育学会（大会編集委員）、大学美術教育学会、日本保育学会、日本建築美術工芸協会、
全国大学造形美術教育教員養成協議会（役員）、ものづくり教育会議（理事）

○自己評価

本年度は、コロナの影響もなくなり、教育現場や公共施設でのワークショップを行うことができた。学会や研究会も対面で行うことができ、研究分野における議論や情報交換を多くの方と行い研究を深めることができた。

また、愛知県私立幼稚園連盟の研修会では、現場教員に日頃研究している専門的な内容を伝えることができた。さらに、研修会では、アンケート調査などを実施して、教育、保育現場の課題を確認することもできた。

毎年、実践してきた学校美術館では、これまでの成果を現場教員にも認めていただき、今年度は津島市の図画工作科教育研究協議会の中で開催することができ、多くの児童や現場教員、保護者にもこの活動に参加いただくことができた。

また、今年度も国内外の様々な展覧会の企画に参加し発表することができた。子どもから大人までの多くの人々に作品鑑賞をしていただき、今後も「美術空間の創造」というテーマで、「芸術や美術」が人に対してどのような役割があるのかを考察していきたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

（目標）

配属された業務を的確に迅速に行って円滑な運営に努めることはもとより、問題解決のための新たな可能性を常に考え、イノベーションを試みる。また、愛知東邦大学教育学部の魅力を高校生、在校生に伝えていきたい。

（計画）

教育学部の魅力を発信できるように、学生と共に積極的にプロジェクトやイベントの企画を行なっていきたい。

また、学生委員会委員長として、学生の学校生活がより良くなるようにキャンパス内の環境を整え、新たな学生支援も試みていきたい。新たな提案を行う時は一時的な提案ではなく「持続できる」仕組みを考え、学生に魅力的な内容となるように、学生のリアルなニーズを学生から直接聞き取りながら進めていきたい。クラブ・サークル活動、奨学金、学生会、学生寮の運営に関しても、学生委員会メンバーと共に学生をサポートしていきたい。

○学内委員等

幼小教職課程・保育士養成部会、学生委員会（委員長）、高大接続プログラムワーキング

○自己評価

各委員会、ワーキングにおいて積極的にアイデアを出し、新たな仕組みづくりを行うことができた。特に、学生委員会では、委員長として委員の教職員メンバーと議論を深めながら、課題解決に取り組むことができた。コロナ禍で実施ができていなかった学生会が企画する大学祭や卒業記念パーティーの運営もサポートし安全に行うことができた。

学生委員会が担当となる範囲は、他の委員会とも重なる部分が多くあるため、他の委員会とも連携して今後も様々な課題解決を継続していきたい。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

自らの専門である造形分野を生かして、地域に貢献できるように勤めたい。また、教育現場や社会における多様な課題に対して、より多くの方とコミュニケーションをとりながら積極的に取り組んでいきたい。

(計画)

地域の子どもたちの教育活動に貢献するために、学生と共にワークショップやイベントを計画していきたい。学外においては教育現場の課題や要望を現場教員、保育者と共有しながら、子どもの造形ワークショップなどを企画、運営していく。また、これらの取り組みを教員研修会や学会で発信していきたい。

○学会活動等

- ・日本美術教育学会大会編集委員
- ・全国大学造形美術教育教員養成協議会役員
- ・ものづくり教育会議研究会会長

○地域連携・社会貢献等

- ・「ことことキャラバン」 in 愛知東邦大学 造形ワークショップ
2024(令和6)年1月20日 13:00～15:00 愛知東邦大学、至学館大学、豊橋創造短期大学
との連携にて実施
- ・「ことことキャラバン」 in おかざき世界子ども美術博物館 造形ワークショップ
2023(令和5)年11月25日 13:00～15:30
愛知東邦大学、名古屋学芸大学との連携にて実施
- ・「津島市立高台寺小学校学校美術館プロジェクト」
作品展示・鑑賞教室・アーティストトーク
講師 2023(令和5)年11月17日 津島市立高台寺小学校学
- ・愛知県私立幼稚園連盟2年目教員研修会 講師 2023(令和5)年8月26日
- ・講演会企画 ものづくり教育会議 「海賊船の活動と理念」
講師：NPO 法人海賊船 理事長 田中 徹 氏 2023年6月24日 14:00～14:50

○自己評価

学会活動においては、今年度も大会編集委員として様々な研究の成果を一つの冊子にまとめ、広く研究の成果を示すことに貢献できた。また、ものづくり教育会議研究会グループでは、会長として子どもの造形活動の意義を現場教員や大学教員、保護者に伝えるために、講演会の企画やワークショップの企画を行うことができた。

愛知県私立幼稚園連盟の研修会では、日頃の研究成果を伝え、子どもの造形活動の意義や現場教

員の課題解決に貢献することができた。

今年度からは、コロナ禍で開催できなかった集団での造形ワークショップが開催でき、大学周辺の子どもたちに対して、造形ワークショップの企画を学生と共に行うことができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

配属された仕事はもとより、積極的に研究活動、大学運営に関わり、自らのスキルを増やして、学生、教職員から、真に信頼して事を任せられる人材になれる様に今後も努めたい。

VI 総括

教育活動においては、学生が体験的な学びができるように、教授方法、環境整備を実行してきたが、今年度はコロナ禍の影響もなくなり、教育現場との連携を重視して近隣の小学校や幼稚園、学内の保育園、公共施設などで学生と造形ワークショップの実施やサービス・ラーニングを実施することができた。また、地域と連携した教育として劇団うりんことの観劇会や造形ワークショップでは、地域の子どもたちを招待したり、愛知県児童総合センター研修会の実施やゲストスピーカの講演会を企画するなど、積極的に魅力的な授業づくりを心がけることができた。

研究活動では、コロナ禍の影響もなくなり、教育現場に訪れ子どもや保育者と触れ合いながら、共に研究活動を行うことができた。今後は、現場教員や保育者の課題と向き合いながら、研修会や学会などで共に意見交換をして、さまざまな課題解決の方法を考えていきたい。

各委員会では、委員会メンバーの教職員からの助けを得ながら迅速かつ的確に業務を行うことができた。学生委員会委員長としては、今年度も学生が目線になり、学生生活のさまざまな課題を見つけその解決方法を委員会メンバーや他の委員会と模索してきた。今年度で全てが解決はできていないが、今後も学生にとって魅力的なキャンパスになるように課題の発見と改善を学生目線で継続して行なっていきたい。

今後も、共に働く教職員に対して「感謝」の気持ちを大切にして、学生のより良い教育環境の整備と大学教育全体の発展へとつなげていくことを目標に努力していきたい。

以 上